

「街頭演説会参加レポート」

長崎県臨床工学技士会 田中 健

衆議院選挙投開票日を翌日に控えた10月21日(土)、秋葉原駅前にて自由民主党街頭演説会へ参加してきました。

数年前なら自分がこのような類のイベントに参加するなんて思いもしなかったのですが、日本臨床工学技士連盟の発足をきっかけに政治(連盟)がこれからの臨床工学技士に重要なものなのか理解してきました。同時に政治とはどのようなものなのか?自分に何ができるのだろうか?と考えていたこの頃、初めて演説会へ参加機会を得ました。

当日は雨に加え台風が近づいてきており風も強く吹いていました。そんな天候にも負けず次々と選挙カーの上で熱のこもった演説をする議員さんたちとそれを応援する人々、異様な光景でした。しかし、どの議員さんも説得力のある演説で力強く訴えます。

人混みの中で演説に聞き入っているとふと目の前の方の首からかけている団体名に目が止まり、そこには日本理学療法士連盟の文字がありました。やはりどの医療系職能団体もこういうことをして自分たちの業務への理解を求めています。臨床工学技士は、歴史の浅い資格です。こういった活動は必須です。講演会の後半、関連団体の応援挨拶がありました。その中には、医師連盟、薬剤師連盟がありました。講演会での応援のみの団体、挨拶をお願いされる団体、この違いは団体の大きさでしょう。これを見ても連盟活動の重要性が分かります。

講演会の最後は、安倍党首の演説です。登場からこれまでとは違います。登場音楽が鳴り響き、それを大歓声で応援する人々、すごい迫力でした。興奮しました!演説も違います。与党として説得力のある政策の必要性、実行力をわかりやすく訴えます。

政治連盟のことは理解できても何をしていたかわからなかったり、政治というイメージが受け入れられなかったり多くの意見があるかと思いますが、臨床工学技士がこれまで以上に活躍できる環境をつくることは、国民にとって間違いなく利益あることです。その臨床工学技士が今後の医療に必要とされ続ける存在となるためには、政治力が必要不可欠です。臨床工学技士全員で取り組むべきことだと強く感じています。

演説会に参加させていただいて政治をより身近に感じることができました。ありがとうございました。

